

令和5年(2023年)10月12日

西宮市議会議長 山田 ますと 様

教育子ども常任委員会 管内視察報告書

■視察日時

令和5年(2023年)8月21日(月)
午後1時40分から午後4時55分まで

■視察委員

委員長	田中正剛
副委員長	庄本けんじ
委員	大川原成彦
〃	おくの尚美
〃	たかのしん
〃	前田しゅうじ
〃	山口まゆみ
〃	渡辺けんじろう

■視察先

①浜甲子園中学校 西宮市古川町2番60号
②瓦木北保育所 西宮市大屋町13番8号

■視察事項

- ①浜甲子園中学校
- ・合同部活動の取組みについて
 - ・学校体育館に設置されたエアコンの効果について
- ②瓦木北保育所
- ・公立保育所でのICTの活用の取組みについて
 - ・タブレット端末の使用状況について

■視察概要

①浜甲子園中学校

施策研究テーマ「部活動の地域移行の在り方について」の調査の一環として、スポーツ庁からの再委託事業「合同部活動等の推進に関する実証事業」を本市が受託して実施している合同部活動の取組みについて、校長からの説明を受けた後、夏休

みの生徒の練習の様子を現地視察しました。浜甲子園、鳴尾南、高須中学校の3校でそれぞれ拠点校を決めて合同部活動が実施されているのは、水泳部、男子バレー部、野球部となっており、地域クラブ活動として、サッカー部と女子テニス部が活動しています。そして、陸上部は練習を3校合同で実施し、大会等には単独で出場されています。

また、上記の学校のうち、2校で拠点校を決めて合同で実施されている部活動は、柔道部（鳴尾南、高須）と女子バスケット部（浜甲子園、高須）となっています。

そして、鳴尾南中学校では女子バスケット部と男子バスケット部、女子バレー部が、高須中学校では男子バスケット部のみが、浜甲子園中学校では男子バスケット部と女子バレー部がそれぞれ単独で活動しています。

なお、視察した部活動は、市当局のご協力のもと、グラウンドで活動する部活動と体育館で活動する部活動を同時に視察できる日時を設定していただきました。

また同時に、令和2年度に全ての市立中学校の体育館に設置されたエアコンの使用状況とその空調効果を現地で確認しました。

②瓦木北保育所

施策研究テーマ「幼児教育・保育の在り方について」の調査の一環として、公立保育所で取り組まれているICTの取組みについて保育所長より説明を受け、先行して配置されていたタブレットの使用状況を現地で確認しました。また同時に、保育所での子供たちと保育士の様子も視察しました。

■意見・感想

①浜甲子園中学校

●合同部活動でも生徒たちは学校間の隔たりなく練習に携わることができていました。

野球部は、暑さ指数(WBGT)が基準値を超えていたことから、室内(格技室)での活動に切り替えていました。3年生が引退したのちにもかかわらず、格技室だけでは手狭なほどの部員が活動し、メニューを分けて練習していました。また、男子バレー部は体育館で12名が練習していました。いずれのクラブも、生徒たちは学校間の隔たりなく、順応していきいきと練習に励んでいる姿を確認できました。

当日の指導体制は、野球部は3名、バレー部は1名の先生が指導に当たられ、特に野球部は6名の指導者がいる中で、生徒10名から15名に1名の割合で配置されており、適切な指導体制が確保され、かつ、教員の負担の軽減にもつながっていることを確認できました。

よって、特に生徒数が減少している地域においては、部活動の持続可能性や生徒にとって選択の幅を広げる観点からも、教員の負担軽減の観点からも、現時点では、合同部活動の取組みは有効な手段と考えられます。

また、限られた練習スペースにおいて、各部活動の練習場所を確保、調整しやすい

という利点も考えられますし、部活動の地域移行を進めるにあたっては、指導者の確保の観点からも、まずは複数校による合同部活動を進めることが有効であると考えられます。

●合同部活動を実施する学校間のルール作りが急がれます。

細かいところでは、これまでは各学校名がチーム名になっていたところを、拠点校以外の学校に通学する生徒にとっては、通学する学校名と所属する部活動のチーム名が異なることになり、また、地域クラブとして合同で行う場合は、どのように調整してチーム名を決定するか、その他、大会への出場の可否も影響を受ける可能性があるなど、様々な課題が生じることが予想されます。

今後、この拠点校方式や地域クラブ方式の合同部活動を全市展開するためには、合同にする学校間の距離や地形、合理的な拠点校の決め方、拠点校以外の学校の生徒の学校間の移動の負担、その安全性についても検証し、全市統一のルール作りが必要になると考えられます。

●体育館に設置されたエアコンは熱中症対策として効果が高いと思われます。

エアコンが設置されていない格技室での練習の様子を視察した直後に、エアコンが稼働している体育館での練習を視察したこともあり、エアコンの効果をより一層実感することができました。もちろん、体育館の耐熱性はこれまでどおりですから、真夏の晴れた日は特に、教室ほど冷えるわけではありませんが、適度な水分補給により、クラブ活動中の熱中症リスクはかなり低下すると思われます。

②瓦木北保育所

●「コドモン」の導入により、保育サービスの向上に効果を発揮していることを確認しました。

ICTの取組みについては、「コドモン」という民間企業が開発したシステムを導入し、保護者がスマートフォンでQRコードを読み取ることで登園・降園時間のデータが管理できるようになり効率化されていました。また、午睡の時間を使って子供たちの一日の様子を写真とともにデータをアップロードすることで、保護者が子供たちの様子を外部から確認できるようにもなりました。このように、出退管理などの保育所運営の効率化のみならず、保護者との情報共有にも役立てられ、保育サービスの向上につながっていることを確認できました。

●全市的に速やかに導入できるよう支援が必要と考えます。

瓦木北保育所では、システムを導入する過程で、想定以上に全ての職員がスムーズに適應することができたとの説明を受けました。しかし、今回視察した保育所は、本市が行った試行実施に手を挙げたという比較的意欲的な保育所であると考えられますので、今後、その他の公立保育所においても、今回得られたノウハウや課題を十分

に共有し、スムーズに導入されるよう支援する必要があると思われま

す。また、公立保育所の役割として、私立の認可保育所等や認定こども園に対しても今回得られたノウハウについて情報を提供する必要があると考えます。また、ICT技術を活用するためには、システムや機器の導入に一定の費用が必要となることを考慮し、公私間での保育の質の格差が生じないよう、市内の私立の認可保育所や認定こども園の一層の保育サービスの向上に向けて、必要に応じて支援を検討するべきと考えます。

●公立認定こども園の設置にあたっては、保育所と幼稚園の働き方の違いを埋める期間を十分に確保する必要があると考えます。

保育士は勤務時間中は、ずっと子供と接しており、いわゆる「ノンコンタクトタイム」がなく、事務に携わる時間は午睡の時間などに限られているとの説明があり、事務の効率化の重要性を確認しました。まずは、上述のコドモンを指導計画の作成にも活用するなど、一層の事務の効率化に向けた活用を検討するべきと感じました。

また、公立保育所は公立幼稚園とは異なり、園務員も養護教諭もいません。そのような中、本年3月に本市が示した「西宮市幼児教育・保育のあり方」では、公立幼稚園と公立保育所の再編の過程で公立認定こども園を設置する予定としています。

今回の公立保育所での保育士の仕事の様子を視察研修したことで、公立幼稚園と公立保育所は似て非なる施設であり、職員の働き方や子供への接し方が大きく異なることを実感しました。よって、公立認定こども園の設置にあたっては、現場の職員がスムーズに順応できるよう、慎重に準備を進めなければならないと、議会としても引き続き、当局の取組みを注視し続けなければならないと感じました。

【意見・感想の最後に】

各委員の意見につきましては、9月13日開催の教育こども常任委員会において披歴していただいておりますので、議事録をご参照ください。

■視察風景

(浜甲子園中学校)



(瓦木北保育所)



以上